

サツマイモ基腐病の 発生生態と防除対策、 気を付けるべき症状について

令和8年8月4日

農業総合センター専門技術指導員室

サツマイモ基腐病の発生状況

年度	特殊報を発表した都道府県	都道府県数
平成30年	沖縄県、鹿児島県、宮崎県	3
令和2年	熊本県、福岡県、長崎県、高知県、静岡県、岐阜県	6
令和3年	群馬県、茨城県、東京都、千葉県、岩手県、愛媛県、福井県、埼玉県、石川県、山形県、北海道、鳥取県、長野県、広島県、徳島県、神奈川県	16
令和4年	兵庫県、岡山県、大阪府、和歌山県、三重県、愛知県	6
令和5年	佐賀県、山口県、新潟県	3
令和6年	京都府、福島県	2

サツマイモ基腐病とは？

◆ カビの一種が原因の土壌病害

学名 *Diaporthe destruens* (Harter) Hirooka, Minosh. & Rossman
ディアポルテ デストルエンス

◆ サツマイモなどヒルガオ科植物のみを侵す

◆ 苗、茎葉、イモの何れでも感染・発病

◆ 感染した苗、茎葉、イモなどにより 分布が拡大

◆ 作物残さと共に土壌中で生存

まん延しやすく、 定着すると根絶が困難

- ◆ サツマイモが栄養繁殖である
1本の感染種イモ → 20～30本の感染苗
 - ◆ 感染していても無症状の場合がある
見た目健全でも、僅かに菌を持つ場合がある
 - ◆ 土壌病害である
土の持ち運びで移動、防除方法が限定
 - ◆ 物流などで運ばれる
感染イモ・苗の流通、コンテナへの感染残さの付着
 - ◆ 雨(水流)で拡散する
降雨、排水不良で胞子が拡散
- まん延しやすい理由に対応した対策を行う

早期発見と対策の重要性

- ◆ 定着すると根絶の難しい病気
- ◆ 発見が遅れるほど対策が大掛かりに
// 経済的損失大



- ◆ 疑わしい場合は直ちに診断！

早期発見がカギ（まずは基腐病の症状を知る）

防除対策は？

- ◆ 防除対策の基本は、病原菌を「持ち込まない、増やさない、残さない」こと。
- ◆ 汚染種苗や病原菌を「持ち込まない」ことが最重要。
- ◆ 基腐病菌を定着させない対策が必要。
早期に発見し、少発生うちに徹底的に「増やさない」、「残さない」対策を実施。

収穫時・収穫後に見られる症状 ～基腐病・その他～

基腐病が検出された(陽性)イモの症状



基腐病が検出された(陽性)イモの症状



基腐病が検出された(陽性)イモの症状



基腐病が検出された(陽性)イモの症状



泥付きのイモ



基腐病が検出された(陽性)イモの症状



基腐病が検出されなかった(陰性)のイモ

黒変部の内部が白～灰白色でボロボロ



基腐病が検出されなかった(陰性)のイモ



外観の黒変は不明瞭
(分からない)



内部は腐敗が進行。
黒変が淡い印象。

菌を分離したところ、
ピシウム菌が高頻度
に分離された。

↓
白腐病

基腐病が検出されなかった(陰性)のイモ



黒変は両端、傷口で見られる



内部は腐敗が進行。黒変が淡い印象。

菌を分離したところ、ピシウム菌が
高頻度に分離された。→ 白腐病

疑わしいと思ったら普及センターに連絡を！